



保険金サービス担当者がおすすめする

事故防止策

自動車の
冠水
編

事故対応の最前線にいる担当者がお伝えしたいこと

近年、線状降水帯がもたらす大雨やゲリラ豪雨による冠水で、広域災害が頻発しています。修理工場に被害を受けた車両が殺到すると損害確認、修理に時間を要します。実際に保険金をお支払いしたケースなどを踏まえ、しっかりとした対策をしていきましょう。



© JAPAN-DA



低い場所の走行は避けましょう！

いつも水がない所に水がある時は注意が必要です！「たぶん大丈夫」と思って突っ込むのは危険です。対向車からの水を被ることもあります！警報発令時はアンダーパスを通過しないなど、過去に冠水した箇所をあらかじめ確認しておきましょう。



水溜りを走行する時は、ゆっくり静かに！



自動車が速度を上げると、空気の吸気量も増えます。空気の吸気口はヘッドライト下など意外と低い場所にあります。そこから水が入るとエンジンに水が溜まり、自動車は動かなくなります。ディーゼル車はガソリン車に比べて吸い込みが強く、より注意が必要です。

大切なお車の避難先、決めていますか？

建物は無理でも、人と車は避難できるという意識で、警報が出る前から、すぐ避難できるよう、準備をしておきましょう。避難先をあらかじめ確認しておくことが大切です。



冠水したらエンジン始動や、自走はしない！

万が一お車が水に浸かったら、エンジンの始動や自走は控えましょう！ハイブリット車は冠水の水位がシート座面下部に達している場合でも部品の破損や、漏電・感電・車両火災の危険があります。

